

会 議 録

1 会議名

平成 28 年度 第 1 回 上越市博物館協議会

2 議題

(1) 議事

ア 平成 28 年度事業について（公開）

- ・上越市立水族博物館
- ・上越市立総合博物館

イ 平成 29 年度事業について（公開）

- ・上越市立水族博物館
- ・上越市立総合博物館

(2) 報告事項

ア 上越市立水族博物館の整備状況について（公開）

イ 上越市立総合博物館改修事業について（非公開）

3 開催日時

平成 28 年 7 月 29 日（金）午後 1 時 30 分から

4 開催場所

小林古径邸 画室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

上越市立総合博物館改修事業の報告事項については、上越市審議会等の会議の公開に関する条例第 7 条第 5 号（意思形成過程情報）に該当するため。

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

ア 委員

川村知行、天野和孝、清沢聡、矢澤健一、上原みゆき、関谷伸一、久保田郁夫、大山賢一
稲葉摩利子

イ 事務局

- ・高橋教育部長
- ・新水族博物館整備課 大瀧課長、力久主任

- ・水族博物館 櫻館長
- ・総合博物館 宮崎館長、阿部副館長、花岡係長、荒川主任

8 発言の内容

(1) 議事

ア 平成 28 年度事業について

イ 平成 29 年度事業について

- ・上越市立水族博物館

【水族博物館資料 1～3 ページに基づき説明】

(天野副委員長) ナイトウォッチの参加者数が少ないようだが、今後の実施予定はどうか。

(櫻館長) 7月22日に第2回目を実施したが、その際の参加者は20名以上であった。

(天野副委員長) 第1回目は、ゴールデンウィークに実施したのか。

(櫻館長) 6月の実施である。

(天野副委員長) 特別展の実施期間、頻度はどの程度か。

(櫻館長) ゴールデンウィーク後から夏休み前の期間に1回、夏休み後から10月までの間に1回、11月以降に1回、入館者の多い時期の狭間に実施し、集客につなげる狙いがある。

(稲葉委員) 平成28年4月から6月の入館者が3千人増加しているが、ゴールデンウィークの増加によるものか。

(櫻館長) 4月とゴールデンウィークの増加によるものである。

(稲葉委員) 6月など、入館者数が伸び悩んでいる時期への対策はあるか。

(櫻館長) メディアの活用などを図ったが、実績につながらなかった。

天候の影響もあると考える。

糸魚川市で漁獲されたヤナギムシガレイの突然変異個体の標本展示等を行うなど、話題性の確保も図ったが、結果として入館者を誘引できなかったのは反省すべき点である。

(稲葉委員) 情報発信の効果があがるよう検討していただきたい。

(川村委員長) ゴールデンウィークにおける入館者の方面別内訳については、把握しているか。

(櫻館長) 4月から6月の間、市内の入館者は21%、長野県からの入館者は37%であった。ゴールデンウィークについては、市内の入館者は11%、長野県が41%であった。

(関谷委員) すいはく塾とは、参加体験型事業全体のことを指すのか。

- (櫻館長) 資料中では、飼育体験、すいはくナイトウォッチ、すいはくバックヤードツアーがすいはく塾にあたる。
- (関谷委員) 参加体験型事業のうち、うみの講座とはどのようなものか。
- (櫻館長) 教育委員会所管の謙信 KIDS プロジェクトのなかで海にかかる部分を受け持っている。
- (関谷委員) 市民にとっては、何かイベントなどがあると水族博物館に足が向くと思うので、すいはく塾を盛り上げてほしい。
- (大山委員) こどもたちは体験が好きであるし、活動をとおして学ぶことが大切なので、教育者としては豊かな体験機会を与えたいと考える。
- ドクターフィッシュのように健康をテーマにした展示も面白いと考える。
- また、日本海ならでは、新潟県、上越ならではの水生生物の展示に取り組んでいただきたい。
- いろいろと知恵を出すことが必要であると考えます。
- (久保田委員) 文部科学省から事業を受託し、海洋高校が主体となってマリンドリーム能生のテーマパークづくりを行うことになった。
- 100周年事業で建設したマリンミュージアムの展示の老朽化が進行しており、上越市水族博物館の助言を受けながらリニューアルを行いたいと考えている。
- また、能生の体験学習施設と水族博物館を連携させた体験学習ツアーなども提案していきたい。
- (稲葉委員) メディアによる情報発信の効果をどう考えているか。
- (櫻館長) 情報発信の効果が、入館者数の増加に繋がっていると考えている。
- (関谷委員) 先日、かごしま水族館に行った際、イルカショーにおいて手話による解説を取り入れていた。
- 新水族博物館はユニバーサルデザインとなっているが、他に先んじた手法に取り組んでもらいたい。

・上越市立総合博物館

【総合博物館資料 1～3 ページに基づき説明】

- (稲葉委員) 博物館のリニューアルオープンに向け、ボランティアグループの養成を検討するとのことだが、どのような形態を考えているか。
- (花岡係長) 具体的な検討はこれからだが、学芸員業務の補助、常設展示室のガイド、博物館を拠点とした市民活動など、いくつかの核を持ちながら全体として一つのグ

グループとして活動する形態を理想としている。

(川村委員長) 博物館の性質上、専門性が求められるため、講習会を開催してボランティアを養成する必要がある。

また、活動をけん引する人物の存在も重要であり、組織として機能させるのは容易ではない。

ボランティアグループの活用は、博物館という施設の抱える課題であり、手探りであっても取り組みを継続していく必要がある。

(矢澤委員) 規模や活動などの方針を明確にして、ボランティアグループを立ち上げることが重要である。

ボランティアは、単に興味があるというだけでできる仕事ではない。

県立歴史博物館の例では、体験学習の補助や案内整理などが主体であり、本当に歴史が好きな人は友の会で活動し、ボランティア活動には参加してくれない。

(川村委員長) 多くの博物館が抱える難しい課題であるが、検討を進めてもらいたい。

(久保田委員) 名立の民宿などで、「海揚がり」が飾られていることがある。

上越市内には港を示す「津」を含む地名があるが、総合博物館や水族博物館で海揚がりを資料として取り扱うことは考えられないか。

海にも目が向けられることで、海と陸の一体感が生まれ、波及効果も得られると考える。

(川村委員長) 海揚がりは水中考古学の範疇であるが、評価が難しいところである。

上越市で収集した資料については埋蔵文化財センターで保管している。

上越市の既存施設でどこが展示対応できるかと言うと...

(矢澤委員) 春に、海揚がりに関する企画展を実施したが、独特の世界である。

もっと注目されても良いと考える。

(川村委員長) 海洋高校で主体的に取り組んではどうか。

我々委員も協力する。

引き続き、それぞれの部会でも協議してもらいたい。

(2) 報告事項

ア 上越市立水族博物館の整備状況について (公開)

【水族博物館資料 4～8 ページに基づき説明】

質疑なし

イ 上越市立総合博物館改修事業について (非公開)

9 問合せ先

上越市立総合博物館 TEL : 025-524-3120

E-mail : museum@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。